

(仮称)桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略原案に対する意見・提言一覧【総合戦略推進委員】

ページ	基本目標 (基本的 方向)	施策の 方向性	具体的 施策	事業名	意見等の内容
6	1				「首都圏介護難民を積極的に受け入れる」ことで、新たな雇用の創出を図る(住所地特例から社会保障費増加とはならない)。桐生市の事業者と協同、補助金等で助成し介護施設を拡充。首都圏との受け入れルートを確認し積極的に高齢者を受け入れる。建設場所としては、自然豊かな山間部ではなく、空き店舗の目立つ市内中心部を想定。不動産の斡旋に行政が積極的に係わり、併せてまちづくりを行っていく。
6	1	(1)			「新たなしごと環境の創出」となっていますが、「仕事環境」というと、職場環境をイメージするような気がします。
6	1	(1)	①	KPI	誘致する企業数の内訳として、試験研究機関数をいれてはどうでしょうか。頭脳集約型の企業誘致にも努めるべきと考えるため。
6	1	(1)	①		今までの実績、今後の可能性からも実現は難しい。(削除) これにかわって、桐生から出ていった企業に戻ってもらうような政策が考えられないか。税金面での優遇、他さまざまな支援
6	1	(1)	②	在宅就労事業	キッズバレイでは、すでに在宅就業支援を行っています。様々な家庭の事情を抱え、子育てと仕事の両立に奮闘している母親を中心に、在宅就業に挑戦してみたいという問い合わせを多くいただきます。クラウドソーシングを活用することで、全国各地からの仕事を取ることが可能になり、初心者でもスキルアップしながら仕事にとりくめるというメリットがあります。自然豊かで、待機児童ゼロ、都内ではあり得ないくらいの恵まれた子育て環境のある桐生だからこそ、多様な働き方の提案が必要だと考えます。 また、子育て中の母親に限らず、都内からの移住者、ニート引きこもり等、個人事業主(フリーランス)として働くサポートを行っていく事で、「桐生に行っても仕事がない」という課題の一つの解決策になるはずです。
6	1	(1)	②	在宅就労事業	有効です。もっと具体的な支援方法まで言及したほうがよい。
7	1	(1)	③	工場アパート維持管理事業	かなり曖昧。(削除)
7	1	(2)			地場産業である繊維製品のブランド化 「今治タオル」の成功例を参考に、有名デザイナーを迎えブランド戦略を展開する。
7	1	(2)			地場産業の活性化について、情報発信の基点という観点から、桐生市内入口付近に「道の駅」といった場所を創り、桐生市へ来られる方への情報提供、地場物産購入の拠点事業等について検討してみてもどうか。
7	1	(2)	①	中小企業新規取引先開拓支援事業	事業内容について、中小企業が大規模展示会への出展等の前段階としても、今年度開催されたビジネスマッチングフェア等への参加推進(補助金の対象等)が有効と考える。具体性を持った取組として追加してはどうか。
7	1	(2)	①		既存
7	1	(2)	②	桐生の逸品発信事業	「ものづくりのまち桐生」の文言は、太田市でもそう宣言している。そこで、もう少し具体的に「伝統のテキスタイルと機械技術力のまち桐生」としたらどうか。
7	1	(2)	②	桐生の逸品発信事業	逸品とはなにか?繊維産業に特化したほうがよい
8	1	(2)	③	地場産業振興センター事業	各団体へのバラマキにしかとれない。実効性が不透明。(削除)
9	1	(3)	①		これらの施策を実施するため、総務省の「地域経済循環創造事業交付金」を活用する。
9	1	(3)	①		中心市街地の空き店舗活用ということで、主に商業系の内容を考えているようであるが、地元大学の技術を活用した、工業系の創業支援を重視するべきではないか。貸工場、商業でも工房商店等が重要になると思う。

9	1	(3)	①		超高齢社会を迎え、地域コミュニティを活用し、高齢者が活躍できる機会を提供することにより、介護や福祉の改善につながるので、高齢者の活躍の場を設けることも必要ではないでしょうか。（この項目ではなく別の項目となると思いますが。）
9	1	(3)	①		事業について、創業企業者の増加を図る観点から、創業事業者へ対する補助金や借入時の利子補給制度など、具体的な内容を追加した方が良い。
9	1	(3)	①		ここを強く打ち出すべき！他にもアイデアがないか？要検討。
10	1	(4)	①		事業名：新規収納者（Iターン、Uターン含む）相談窓口の設置 概要：農林課、農業委員会、JAが連携し、技術研修機会、遊休農地、施設の紹介と相談
10	1	(4)	①		農業だけではなく林業、酪農も含めたほうがよい。
10	1	(4)	②	六次産業化推進事業	次の欄の《新規》に黒保根が挙げられているが、農産物では、新里の畜産も大きなウエイトを占めているので、養豚業のことを具体的に挙げてよいのでは。
10	1	(4)	②	六次産業化推進事業	「六次産業化」に係る表記については、法律上の用語以外は、一般的には漢字でなく数字が用いられているため、「6次産業化」と記載した方が適当と考えますがいかがでしょうか。
10	1	(4)	②	六次産業化推進事業	?（削除）
10	1	(4)	②		これらの施策を実施するため、総務省の「地域経済循環創造事業交付金」を活用する。
10	1	(4)	②	《新規》地域特産品等開発販売促進事業	「黒保根産」限定でよいのでしょうか。特にブドウなどの生産農家は、桐生市街地周辺にも多く、地域を限定する必要があるのでしょうか。
10	1	(4)	③		（参考） 市から具体的な計画の相談等があった段階で、事業名にあるような国や県の効果的な助成制度（森林・林業再生基盤づくり交付金等）を紹介、活用を支援を行いたい。
10	1	(4)	③		木質バイオマス発電ができないか？
11	1	(5)	①		職業能力開発と在宅就業支援を連携して行うことで、能力開発、スキルアップ、桐生で働く人の増加につなげることができると考えます。 雇用対策補助事業では、仕事の業務内容だけではなく、起業の成り立ちや理念などを高校生・大学生に知ってもらい、愛着を持ってもらいたい。大学に進学してもUターンで戻ってくる、地域のことを誇りに思う学生を育てるということぞキャリア教育もかねることができる。高校生の柔軟な発想で地元企業に対して事業提案するなど、起業家精神も育てることで、次世代を担う人材を地域で育てることにもつながる。
11	1	(5)	①		必要性を感じない。（削除）

(仮称)桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略原案に対する意見・提言一覧【総合戦略推進委員】

ページ	基本目標 (基本的 方向)	施策の 方向性	具体的 施策	事業名	意見等の内容
4	2				観光振興の目的が、イベントによる経済効果となっているが、交流人口の増加の第一目的を、経済効果ではなく、将来の桐生への定住とする方が良いのではないかと。来桐に伴う経済効果は、その第一歩であろう。
4	2				歴史、自然、文化の後に「山紫水明な立地」を追加したらどうか。 「本市が有する貴重な資源・・・」→「本市が有する貴重な住環境・・・」としたらどうか。
12	2	(1)	①		空き家・空き地バンク制度の活用をKPI目標にしてはどうか。
12	2	(1)	①		既存
12	2	(1)	①	《新規》桐生暮らし体験ツアー	これらの施策を実施するため、総務省の「地域経済循環創造事業交付金」を活用する。
12	2	(1)	②	《新規》移住・定住情報のPR戦略事業	情報発信力を高めるため、Wi-Fi環境の整備や「スマートフォン用ホームページの作成事業」を盛り込む。
12	2	(1)	②		さまざまなスタイルで桐生で暮らしている人を、ロールモデルに取り上げられるとよい。脱サラしてお店を始めた方、桐生に住みながら東京の仕事もしている方、など。多様なワーク・ライフスタイルを見せられるとよい。
12	2	(1)	②		移住・定住に向けた情報発信として、移住者において仕事の確保が重要な観点から、官民（市内の事業所）が一体となった情報発信の仕組みを構築し、移住者に向けた情報の提供を推進する事業を加えたらどうか。
12	2	(1)	②		効果が見込めない。（削除）
13	2	(2)			内容を精査すべし。
14	2	(3)	①		交流人口増加による桐生の認知度・好感度向上により将来の定住人口増加を目指す
14	2	(3)	①		地元の人とつながりを持てる体験型のツアーを、市民参加型で構築する。人同士が繋がるツアーを開発することで、2度、3度と桐生を訪れてくれる方を増やす。
14	2	(3)	①		協会事務所の設置ということだと一過性の事業であり、長期計画の事業として設定することはいかがかなものではないかと。 桐生市が進めてきた観光客向けのトイレ整備や重伝建地区を始めとした観光施設等の整備（無電柱化等も含め）など、継続性のある取組を入れた方がよいのではないかと。 ※「体制づくり」は協会という組織づくりだけでなく、観光客をお迎えする観光施設、観光地整備という意味を加える記載にした方がよいのでは。
14・15	2	(3)	①④		情報発信力を高めるため、Wi-Fi環境の整備や「スマートフォン用ホームページの作成事業」を盛り込む。
14	2	(3)	②		祇園屋台会館が重伝建地区には必要。 織物関係はすでにある。
14	2	(3)	③		動物園と重伝建は別物。→ 動物園はすでに多くの入園者がいる。問題は、重伝建。
14	2	(3)	③	動物園観光促進ウェルカム事業	動物園と遊園地との融合施設として捉えたい。そのためには、遊園地のレストランを桐生ならではの焼きまんじゅう、ひもかわうどん、ソースカツ丼等、メニューを見直し、集客数を増やす。
15	2	(3)	④		宿泊施設がないので、（足りない）民泊を推進する政策があっても良いのでは。
15	2	(3) (4)			観光事業及び集客に向けた特色のあるイベントの開催について、相乗効果を期待すべく現在行っている様々なイベント（ビジネスマッチングフェアなど）をファッションウィーク時期に集中開催するような検討をしてみてもどうか。

15	2	(4)	①	桐生の魅力でもある「まち」と「自然」が近い環境を大いに活かすイベントを今後開発できるとよい。現在、注目の高い、トレイルランニングや自転車など、桐生の自然を十分に感じ、満喫できるスポーツイベントを実施することができれば、全国から参加者が集まると予想される。
15	2	(4)	①	「ウまいもん合戦」は隣県等を大きく取り込んだイベントですが、これだけでなく、みどり市、足利市、日光市を巻き込むような視点と取組があった方がよいのではないのでしょうか。
15	2	(4)	①	すべて既存事業なので挙げる必要はない。やはり、重伝建との関係も考えると、祇園祭の再興ではないのでしょうか。「うまいもん合戦」の意図がわからない。(中止を望みます)

(仮称)桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略原案に対する意見・提言一覧【総合戦略推進委員】

ページ	基本目標 (基本的 方向)	施策の 方向性	具体的 施策	事業名	意見等の内容
16	3	(1)	①		うまいもん合戦よりもこちらの方を優先すべきだと思います。
16	3	(1)	②		「妊娠のための希望をかなえる」は、経済的負担の軽減に対してなら「かなえる」としてもよいが、妊娠することに対してなら「支援」までとした方がよいと思う。
16	3	(1)	②		既存
17	3	(2)	①		第3子以降ではなく、第2子以降にできないか。第3子以降は他市でもあるので。他は、既存の範囲
17	3	(3)	①		既存の範囲 新しいものがあるか？
18	3	(3)	①	予防接種事業	桐生らしさを出すために、他自治体でも取り組んでいる事業については、記載しない方がよいと思います。
18	3	(3)	①	子育てワンストップ・プラットフォーム事業	様々な施策を子育て世代にしっかりと伝え、活用できるようなコーディネーターの存在があるとよい。子育てワンストッププラットフォーム事業を推進することで、桐生の様々な情報をつなげ、子育て世代に情報をスマートに伝達できるようになる。
19	3	(3)	②		複数地区に設置していくものであれば目標設定として適切だが、1か所の場合はどうなのでしょう。
19	3	(3)	②		子育て世代支援センター、果たしてニーズがあるのか？シングルマザーを支援する施策が必要。
19	3	(4)	①		親がいきいきとした表情でなければ、子どもは健全に育たない。核家族化が進行するなかで、いま一度地域力を向上させ、安心して子育てできるように、サポートしていきたい。産前産後ケアなども、その世代に近い先輩ママ・パパがサポーターになることで、ナナメの関係でのサポートが有効あと考える。
19	3	(4)	①		施設を開設すればよいという問題ではないのでは？
20	3	(5)	①		市内中学生全員に本物の薪能の鑑賞を実施していく。
20	3	(5)	①		人口の市街流出に歯止めをかけるため、ふるさとの良さを知り愛着を持ってもらうような教育活動を行うことも入れた方がよいのではないのでしょうか。(織物体験事業などがそれに当たるのでしょうか。)
20	3	(5)	①		既存の範囲？ インターナショナルスクールは黒保根だけではなく、全市で実施する。
20	3	(5)	②	《新規》総合教育センター開設事業	総合教育センターの設置に関しては、箱モノを別に作るのではなく、図書館の充実と一体化して考えるべき。その際に、県、周辺市との物理的連携(本の貸し借りだけでなくアクセスも含め)を考えることが重要と思う。
20	3	(5)	②	《新規》総合教育センター開設事業	総合教育センター開設事業では、現場で頑張る先生方が、つながり、情報交換できるような研修制度を取り入れるとよいと考える。教員再教育というようなマイナスをプラスにというような取り組みだけでは、桐生の魅力につながるような教育は実現しない。今や、教師による一方的な授業では、次世代をたくましく生きる子供の教育はできない。アクティブラーニングや探求型のスタイルを取り入れ、教員も生涯学び続け、答えのない問いに向き合う勇気をもてる場にしていきたい。
20	3	(5)	②	《新規》総合教育センター開設事業	施設は不要です。
20	3	(5)	②	KPI	施設整備は、一過性のものであり長期計画の目標とするのはいかがなものでしょうか。

(仮称)桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略原案に対する意見・提言一覧【総合戦略推進委員】

ページ	基本目標 (基本的 方向)	施策の 方向性	具体的 施策	事業名	意見等の内容
21	4	(1)	①	KPI	指標を、自主防災組織の組織率にしてはどうでしょうか。
21	4	(1)	①		既存の範囲？
21	4	(1)	②	地域公共交通体系改善事業	公共交通の利便性アップについては、先ず維持が重要な課題となる。若い世代が便利に使えなくては実現できない。その為には、二次交通の一次交通への連絡が重要である。時間的な接続のみならず、乗り換えバリアとなる停留所の場所、運賃の計算方法も含めて大幅な改善が重要。事業者間の高度な連携が必須である。
21	4	(1)	②		既存の範囲？
22	4	(2)	①		既存の範囲
22	4	(2)	②		市内中心部の空き店舗対策と人口減少に見合ったコンパクトシティへの移行、公共インフラ維持の観点から新たなまちづくりを行う。介護施設建設と商業等の都市機能、居住機能の区分けと融合により活性化を図る。また、人のにぎわいの観点から道路の車規制を導入する。
22	4	(2)	②		これらの施策を実施するため、総務省の「地域経済循環創造事業交付金」を活用する。
22	4	(2)	②		事業名：中心市街地の再開発 概要：桐生再生・創生の核となる事業として、中心市街地の再開発を行う。そのために、民間の力を活用した組織を立ち上げる。
22	4	(2)	②	《新規》中心商店街再生事業	アンケートからも、中心市街地の活性化を望む声は大きい。マルチステークホルダーで、地域の将来を考え、活性化策をひねりだしていく体制を整えたい。桐生の中心、本町5丁目につくった、ココトモも有効活用していきたい。
22	4	(2)	②		台風、地震等の自然災害に対応できる安心して暮らせる地域づくりのためには、都市インフラ・教育施設・医療機関等の整備が必要であるので、この項目が適当かどうか分かりませんが、何らかの項目を設けてはどうでしょうか。
22	4	(2)	②		公共交通機関を活かした住民の中心市街地への往來の利便性向上のために、デマンドタクシーの活用等も必要と思います。
22	4	(2)	②		ここが重要！ コンパクトシティ構想をはっきりと掲げるべき！
22	4	(2)	③		自家用車中心のまちづくりから、徒歩自転車への移行を図ることが重要。これは、環境のみならず、安全や健康寿命の伸長にも大きく寄与する。道路交通網の整備の中に自転車都市構築などの低速交通都市の実現を謳いこめないか。 (3)の予防処置にもなる。
23	4	(2)	③		既存？
23	4	(3)	①	KPI	がん検診においては、体制の整備が目標ではなく、がん検診率の向上（しいては、がんによる死亡者の減少）を目標とすべきではないでしょうか。
23	4	(3)	①		既存の範囲
24	4	(3)	②		既存の範囲
24	4	(3)	③		地元に住む大学生などをまち中に計画的にかつ積極的に住まわせる優遇施策の実施
24	4	(3)	③		新規のものは必要です。
25	4	(4)	①		歴まち法の申請はよいが、なぜそんなに申請までに時間がかかるのか？（個人的な疑問）
25	4	(4)	①	歴史まちづくり整備事業	重伝建群だけでなく、桐生が輩出した野間清治や森喜作氏等の偉業、また、黒保根の星野長太郎や新井領一郎氏等、人物にも目を向けたい。

25	4	(5)	①		高齢者が利用する小型電気自動車限定免許の特区申請。現状の自家用車をいつまでも乗り続けずとも済む加害者にもなりにくい小型EVへの移行を促進する。軽トラしか乗らない高齢者に現行の普通免許を押し付けることは危険。一気にシニアカーしか選択肢が無い世界からの脱却を目指す。
25	4	(5)	①		取り組みの趣旨とは若干違うのかもしれませんが、ゴミの排出量の削減の取り組みなどを入れてはどうでしょうか。
25	4	(5)	①		既存の範囲
26	4	(7)	①	《新規》鉄道を基軸とした地域間連携の推進と沿線の活性化	現状の鉄道利用の促進には、ある程度の運行頻度が必要。特に両毛各市をネットして結ぶ東武鉄道の活用とJRの連携は重要。各都市間のシャトル化、エリア内の運賃割引や広域パス（二次交通を含む）の通年設定などが考えられる。東武桐生線については、りょうもう号の赤城・太田間の各停化と乗車券のみ（または廉価な着席券）での一部車両乗車可制度（小田急・箱根登山などでやっている）などにより列車頻度向上がはかれる。各市の二次交通を福祉交通から生活交通に持ち上げるための連携と含め実施する必要がある。この事業は関係機関への要望ではなく桐生市に主体となって牽引してほしいところである。